

特別講義 病気を診る (A Disease and Its Diagnosis I))				担当教員	
				特命教授 佐藤 隆司	
科目群	開講期	単位数	必修等		
人と文化	1年次 前期後期	2単位	選択		

【概要】

何らかの病気により身体の異常が生じた場合、これに早く対処することは病気を悪化させないために重要なことです。そのためには、私達がそれらの原因や異常な症候をすこしでも理解していることが自己管理の面から重要です。身体の異常は「自覚症状」や血液などを材料として検査をした時の「異常な臨床検査値」として表れますが、これらの異常は病気の発症原因と深くかかわっています。私達がどのような病気の場合にどのような自覚症状や臨床検査値の異常が表れるかを、その病気の原因とともに知っておくことは、病気を早期に自覚し、治療に対処することができるようになります。

本講義では、身近でよく知られている疾患を主に取り上げ、それらの異常な症候、および疾患の原因との関係を分かりやすく解説します。また関連する最近の話題も適宜紹介します。この講義を通して、体に異常が生じた場合にその症候から病気を認識できる知識の修得を目標とします。なお本講義は「病気を診るⅠ」および「病気を診るⅡ」で構成し、両者を聴講することで様々な疾患の幅広い知識を修得できますが、両講義では各疾患を独立に解説しますので、一方の聴講のみでも知識が広がります。

(書名)

(著者・編者)

(発行所)

教科書 適宜資料を配布する

参考書 必要時に紹介する

【成績評価方法・基準】

レポートと出席